

---

## 資 料

---

- 1) Earth Kids Camp Report 2002～2009
- 2) 環境教育指導者養成セミナー 2002～2009
- 3) 環境の村基本計画
- 4) 関係機関一覧
- 5) 貸出物品一覧

# Earth Kids Camp Report 2002

フィールドを知り、環境へのローインパクトを考える

【日程】2002年7月27日(土)～28日(日) 1泊2日

【参加者】男16名、女6名(小学1年生～6年生)

【場所】道民の森・青山交流館

## 概要

### 【初めてのアースキッズキャンプ】

環境教育に効果があるとされるのに、多くの自然体験と指導者の後ろ姿というレポートがアメリカで発表されている。その自然体験も五感を使ったものに重点を置き、アメリカで開発されたアースエデュケーションの手法を取り入れた。そして、キャンプの運営自体を環境に配慮したものにして、プログラムで子どもたちに伝えていることと、実際にやっているキャンプでの生活を一致させるような工夫をした。1泊2日の短いキャンプでしたが、時間をゆったり過ごし、参加者同士が民主的に物事を話し合い、地産地消の食材を使った食事に、環境を考えるきっかけとなった。

## プログラム

	活 動	内 容
1 日 目	集合 アイスブレイク 目的の共有化 約束作り アースウォーク  生態系の理解 ナイトプログラム	当別駅に集合し、会場までバスで移動 レクリエーションゲーム 子どもたちの目的を聞く PAのビーイングを行う リーフスライド、テナタッチズ、リリパットの庭のアクティビティ 太陽エネルギーの流れや食物連鎖を学ぶ 真っ暗な夜の森を体験
2 日 目	アースウォーク フィールド調査 ふりかえり 解散	ソロになる 気になる自然を見つける キャンプで感じたことをグループで発表 バスで移動



## ふりかえり

### 【子どもの感想】

- ・たんけんしているときに上を見たら星がきれいでした。
- ・夜の森に行ったとき、森の中はまっくらでした。
- ・この2日間はみじかかったけど、たくさんの思い出があります。友達ができたこと、楽しくみんなであそんだこと、マジックスポットのこと、森にいったこと。マジックスポットでは虫の声、はっぱがゆれて、ガサガサという音などが聞こえました。

### 【保護者の感想】

- ・帰ってきたときの子どもたちのキラキラとした瞳とスタッフの別れを惜しむ姿がとても印象的でした。
- ・自然のもの(木など)を利用してのあそびを考えるようになった。
- ・キャンプを通じて新しいお友達が出来、親が知らなかった自然の事などを学んでくれました。
- ・帰ってくるなり「楽しかった」という言葉を聞くことができ、自然と楽しんできた。という顔をしていた。

# Earth Kids Camp Report 2003

## 環境問題への興味・関心を持つ

【日程】2003年7月29日(火)～8月1日(金) 3泊4日

【参加者】男11名、女15名(小学1年生～6年生)

【場所】道民の森・青山交流館

## 概要

### 【環境への関心を高める】

2回目のアースキッズキャンプは3泊4日と長く、対象も高学年となり、内容もより高度なものに取り組むことが出来た。また、期間が長くなることで、子どもたちの主体的なプログラム提案も取り入れることが出来、自由な雰囲気になった。

テーマを興味・関心とし、昨年から導入したアースエデュケーションのアクティビティとフィールドマップ作りを中心に行った。また、1日目の夜には、フィールドの近くの出身の松岡さんにお越しいただき、子どもの頃の遊びやフィールドの自然について話しをしていただき、この地域の文化といった視点での興味につながった。

## プログラム

	活 動	内 容
1 日 目	集合 アイスブレイク 目的の共有化 約束作り 生態系の理解 ナイトプログラム	当別駅に集合し、会場までバスで送迎 レクリエーションゲーム 子どもたちの目的を聞きました PAのピーイングを行いました 水、土、空気をテーマに学びました 地元の話をお聞きました
2 日 目	朝のミーティング 仲間づくり フリープログラム 看板作り 絵本の朗読	レクリエーションゲーム 雨のために自主的な活動にしました 環境の村の看板作り 毎晩絵本を朗読して就寝です
3 日 目	朝のミーティング 環境の村探検隊 環境の村マップ作り 温泉ツアー まで星を見よう	昨年に続き、自然調査をしました 中小屋温泉へバスツアー 昨日の雨と打って変わり、満天の星空に、 子どもたちの希望で、グラウンドに寝袋を持 ち出しました
4 日 目	朝のミーティング 4日間のふりかえり 地球への約束  魚釣り 解散	毎朝、メンバーの調子を尋ねます 体験したことをグループで共有します お家に戻っての環境に配慮した習慣作りの お約束 子どもたちの希望です 当別駅までバスで送迎



## ふりかえり

### 【子どもの感想】

- ・流れ星を見て感動した。
- ・調理の話ばかりしていました。
- ・お茶碗の洗い方とか、野菜くずをミズコンポストに入れること。
- ・水や空気や土が循環していることを話してくれました。

### 【保護者の感想】

- ・スタッフが身近に感じられる人で良かった。
- ・子どもが一回りも、二回りも大きく成長して帰宅したことがうれしかったです。
- ・とっても満足した表情で、素直に楽しかったことを話してくれました。

# Earth Kids Camp Report 2004

環境問題への興味・関心を持ち、自然との上手なつきあい方を学ぶ

【日程】2004年7月26日(月)～29日(日)3泊4日

【参加者】男13名、女12名(小学4年生～6年生)

【場所】道民の森・青山交流館

## 概要【環境の村の整備】

環境の村事業がスタートして3年。夏にこのフィールドで活動する上で最低限必要な日よけとトイレが無く不便だった。そこで、アイヌの仮小屋作りのノウハウを活かして、トイレを作ることにした。指導は札幌でマイユカラの会を主宰されている計良さんにお越しいただき、1日かけて木を切り出し、組み立て、完成させた。また、この土地は先住民の人たちの狩りをする場所でもあり、クチャという狩りをする時に作った小屋作りと、翌日には、狩りに使う弓矢作りを行った。また、昨年の継続としてフィールド調査も行い、少しづつ手作りで環境の村作りに取りかかった年となった。

## プログラム

	活 動	内 容
1 日 目	集合 アイスブレイク 目的の共有化・約束作り フィールドマップ作り ナイトプログラム 絵本の朗読	当別駅に集合し、会場までバスで移動 レクリエーションゲーム 目的を聞き、ビーイングを行う 継続した自然調査を行いました マップの整理です
2 日 目	朝のミーティング クチャ作り ねじりパン作り ナイトプログラム	毎朝、メンバーの調子を尋ねます アイヌの人たちの狩小屋です おやつに作りました アイヌのお話し・絵本の朗読
3 日 目	朝のミーティング 弓矢作り 環境の村マップ作り 温泉ツアー 絵本の朗読	環境の村のフィールドはアイヌの狩り場でした マップに仕上げました
4 日 目	朝のミーティング 魚釣り 4日間のふりかえり 地球への約束 解散	体験したことをグループで共有します お家に戻っての環境に配慮した習慣作りのお約束 当別駅までバスで送迎



## ふりかえり

### 【子どもの感想】

- ・4日間で、一番楽しかったのは、弓矢作り。友達もたくさんできた。
- ・この4日間いろいろと楽しいことがありました。はじめての手作りパンを作ったり料理をしたり、弓矢を作ったりキャンプファイヤーなど色々なことをしていい思い出ができました。たくさん友達をつくって、たのしい思い出ができたのでよかった。

### 【保護者の感想】

- ・はじめて子どもだけでキャンプに参加して、自立心が高まったと思います。帰ってきてから、妹や近所の子と弓矢を作って遊んでいました。
- ・家にいるとどうしても親が手を出してしまうようなことが多く、やってもらって当たり前、という生活をしているので、自分一人の力でやらなければいけない・・・出来る！ と参加してわかったことが本人が実感していた。



# Earth Kids Camp Report 2005

## 生活道具を作る

【日程】2005年8月8日(月)～11日(木)3泊4日

【参加者】9名、女17名(小学4年生～6年生)

【場所】当別町、旧川下小学校

### 概要【新しい環境の村】

昨年まで利用していた青山交流館の使用が出来なくなり、当別町内にある旧川下小学校を拠点として実施することとなった。そこで、環境の村フィールドまでの距離が遠くなり、フィールドでのプログラム展開が難しく、テーマも身近な生活道具作りとした。内容は地球の素材を使っの食器作り。地元で陶芸の工房を主宰されている高橋さんにゲストとしてお越しいただき、野焼きで焼いてみた。そんな中でも、1日はフィールドに行き、自然環境調査を引き続き行った。

また、日程が七夕と重なり、地元の七夕祭りを協働で行った。

### プログラム

	活 動	内 容
1 日 目	集合 アイスブレイク 目的の共有化・約束作り 土器作り(その1) 七夕祭り 絵本の朗読	当別駅に集合し、会場までバスで移動 レクリエーションゲーム 目的を聞き、ピーニングを行う 粘土での形成作業です 地元の方と一緒にを行いました
2 日 目	朝のミーティング 環境の村フィールド自然調査 温泉 フィールドマップ作り 絵本の朗読	毎朝、メンバーの調子を尋ねます アイヌの人たちの狩小屋です アイヌのお話し・絵本の朗読
3 日 目	朝のミーティング 土器作り(その2) 環境の村マップ作り 温泉ツアー 絵本の朗読	野焼きをしました マップに仕上げました
4 日 目	朝のミーティング 土器作り(その3) 4日間のふりかえり 地球への約束 解散	もう一度作りました 体験したことをグループで共有します お家に戻っての環境に配慮した習慣作りのお約束 当別駅までバスで送迎



### ふりかえり

#### 【プログラムの効果分析】

調査は自然環境に関する「興味関心」「知識」「意欲・態度」「技能」「参加・行動」の5つにカテゴリ化された24項目の設問を用意し、プログラムの実施前と実施後に調査を行い、それぞれを平均値(mean)および標準偏差(S.D.)で示した。また、「事前」と「事後」の変化をt検定を用いて比較し、効果の分析を試みた。

結果、ほぼ全ての項目で数値の増加が認められ、今回のプログラムは高い学習効果があったことを示唆する内容となった。さらに、事前の調査の傾向として、知識、技能の項目が低く、このことから、自然環境には興味を持っているにもかかわらず、それに対してどのように接すれば良いのか? 一体自然はどういったものなのか? という知識が少ない傾向が伺える。しかし、「事後」では、知識、技能の全ての項目で数値の増加が認められた事から、子ども達が今回のキャンプで何らかの知識や技能を身につけてくれたことが示唆された。

# Earth Kids Camp Report 2006

「食べる」、「住む」をコンセプトとしたエコロジカルな暮らしの実践

【日程】2006年8月 1日(月)～ 4日(日) 3泊4日

【参加者】男11名、女 7名(小学4年生～6年生)

【場所】当別町・旧川下小学校

【ゲスト】計良光則さん(ヤイユーカラの会代表)

## 概要【環境の村では食べることを大切にします】

環境の村のコンセプトは自然の中での体験や生活の中でのエコロジーな暮らしの習慣化です。今年のアースキッズキャンプは「食べる」、「住む」をコンセプトにエコロジカルな暮らしを実践することをテーマとしました。また、アースキッズのベース基地となる宿泊場所が旧川下小学校を利用するため、プログラムでは「食べる」、「住む」のテーマの元にクチャを作り、エコロジーな暮らしを、冬水田んぼの生きもの調査をすることで安全な食べ物と生物の多様性を考え、道民の森にある環境の村へ出かけて自然の中で過ごし、道民の森の生きものをつながりを考えてみました。

## プログラム

	活 動	内 容
1 日 目	集合・オリエンテーション アイスブレイク タイムボックス 目的の共有化・約束作り 葉っぱのスタンプ・温泉 絵本の朗読	当別駅に集合し、会場までバスで移動 レクリエーションゲーム 周囲から時計を取り除いた 目的を聞き、ピーニングを行う 周囲の自然環境を葉っぱから理解する
2 日 目	朝のミーティング クチャ作り ナイトプログラム 絵本の朗読	毎朝、メンバーの調子を尋ねます アイヌの人たちの狩小屋です 翌日の釣りの仕掛けを作りました
3 日 目	朝のミーティング 環境の村フィールド調査 道民の森での活動 温泉ツアー ナイトプログラム	昨年までより範囲を広げ、化石や水質調査 をしました 環境教育アクティビティをしました 絵本の朗読
4 日 目	朝のミーティング 冬水田んぼの生きもの調査 4日間のふりかえり 地球への約束 解散	体験したことをグループで共有します お家に戻っての環境に配慮した習慣作り のお約束 当別駅までバスで送迎



## ふりかえり

### 【プログラムの効果分析】

調査は昨年と同じフォームで実施しました。また、プログラムの効果の継続性を測るために、5ヶ月後にもアンケートを行いました。

どの項目についても、キャンプ前と後とで有意差があり、プログラムの効果が現れた。しかし、5ヶ月後の調査では「環境にやさしい生活について関心がある」「自然の中には多くの生き物がいた方が良くと思う」「自然を守る方法をいくつか知っている」「環境問題を解決する方法をいくつか知っている」「自然を守るためになにかしたい」「環境にやさしい暮らしをしてみようと思う」という項目で顕著な低下が見られ、キャンプ中は食器の汚れを拭き取ってから洗ったり、生ゴミは土に返すようにしていたので、環境にやさしい暮らしについて意識的に生活していたが、普段の生活で終始意識し続けることが難しいと考えられる。

# Earth Kids Camp Report 2007

「食べる」をコンセプトにした、田園や里山での遊びや暮らし

【日程】2007年8月 1日(月)～ 4日(日) 3泊4日

【参加者】男11名、女 7名(小学4年生～6年生)

【場所】当別町・旧川下小学校

【ゲスト】早川さん(パン・ノルトエッセンゴ主人)

## 概要【食や農をテーマとしたキャンプ】

環境の村のプログラムの特徴である「体験」や「生活」を最大限活かした内容とするため、活動場所となる旧川下小学校周辺のフィールドの特徴である「食」や「農」をテーマとした。また、主食のご飯とパンにこだわり、特にパンは、小麦以外の材料となる塩、砂糖、油脂、自然酵母をすべて手作りできかなうこととした。パンは当別町でパン屋を営むノルトエッセンゴ主人の早川さんにお越しいただき、石窯でパンを焼いて食べた。また、お米は当別町で冬水田んぼにチャレンジされているファームひなたんぼの竹田さんの田んぼにおじゃまして、生きもの調査を行った。

## プログラム

	活 動	内 容
1 日 目	集合 アイスブレイク 目的の共有化・約束作り ランチョンマット作り パンを作る 温泉タイム 絵本の朗読	当別駅に集合し、会場までバスで移動 レクリエーションゲーム 目的を聞き、ビーイングを行う 継続した自然調査を行いました マップの整理です
2 日 目	朝のミーティング パンを焼く ナイトプログラム 絵本の朗読	毎朝、メンバーの調子を尋ねます アイヌの人たちの狩小屋です おやつに作りました アイヌのお話し・絵本の朗読
3 日 目	(台風のために室内にて) 朝のミーティング 環境教育アクティビティ 葉っぱのエコバック作り 温泉ツアー 絵本の朗読	マップに仕上げました
4 日 目	朝のミーティング 冬水田んぼの生きもの調査 4日間のふりかえり 地球への約束 解散	体験したことをグループで共有します  当別駅までバスで送迎



## ふりかえり

### 【プログラムの効果分析】

子どもたちの変化では、興味・関心、スキル、参加に効果が見られたが、知識レベルでの学びにはつながらなかった。このことから、子どもたちが身近に感じる体験であるパン作りや生きもの調査の結果だと思われる。単なるパン作り教室ではなく、プロのパン職人が、子どもたちを前にして、身近な自然の素材を使い、自然の中から目に見えない酵母菌を取り出したりとすることで、自然への興味や関心が高まったのだろう。それに、パンを焼き、塩を作り、砂糖を作りとゆっくり手作りをしていくことで、スキルや参加意欲が高まったものと思われる。

このことから、環境を意識化したり、興味や関心を持つためには、自然の中での体験だけではなく、身近な自然と関わる対象をうまく捉えてプログラムしていくことが必要だということがわかった。



# Earth Kids Camp Report 2008

## 森づくりから温暖化の解決を考える

【日程】2008年7月29日(火)～8月1日(金) 2泊3日

【参加者】男 9名、女 9名(小学4年生～6年生)

【場所】道民の森・神居尻地区

### 概要【環境の村では食べるものと住むことを大切にします】

初めての道民の森でのアースキッズキャンプ。フィールドは大自然の森に囲まれているので非常に幅広いプログラムが可能となったが、他の道内の森と違うところは、植林や間伐体験が出来るところで、このフィールドの良さを活かした内容とした。

何とんでも、道民の森では460年の樹齢といわれているミズナラに会いに行き、子どもたちの希望の中で一番多かった釣りを行った。釣りの道具はすべて森の中で調達することとし、準備に相当の時間がかかった。夜はフクロウを観察し、最終日には植樹広場の草刈りを行い、自然のあるべき姿を考えるキャンプとなった。

### プログラム

	活 動	内 容
1 日 目	集合・オリエンテーション アイスブレイク 目的の共有化・約束作り アースウォーク お箸作り ナイトプログラム	当別駅に集合し、会場までバスで移動 レクリエーションゲーム 周囲から時計を取り除いた 目的を聞き、ビーイングを行う 周囲の自然環境を葉っぱから理解する
2 日 目	森の長老ミズナラに会う 川で魚釣り ナイトプログラム 1日のふりかえり	毎朝、メンバーの調子を尋ねます 川虫を餌に魚釣り 翌日の釣りの仕掛けを作りました
3 日 目	森の手入れ ピースオブフォレスト  ふりかえり・協力ゲーム 解散	草に覆われている草刈りを行った 森の中での体験をいつまでも忘れないように、実生苗を森の中からいただき、持って帰って世話をしてもらうこととした



### ふりかえり

#### 【プログラムの効果分析】

アンケートの結果から、環境に対する参加者像が見えてくる。集まってすぐに行ったアンケートから、今回の参加者は環境や自然に関してはあまり関心がなく、自然の仕組みについてはあまり知らず、自然の中で楽しんだり、自然を守るための方法を知らないが、環境を大切にしなければならないと思っている。また、友だちとの関係の取り方は、自然や環境に関するよりもポイントが高い傾向がある。要するに、環境に対しては大切にしなければならないと思っているが、関心も知識もなく、方法も知らない参加者が集まってきたということがいえる。そんな中でも個人を見ると、今までにTECのプログラムに参加している子どもたちはどの項目も高く、普段からの自然体験が意識を変えていることが伺える。

全体的に、自然体験活動や草刈りを行った直後ということもあり、自然や環境への関心や環境問題を解決する方法を知っているという項目では効果が見られた。しかし、自ら進んで問題を解決したり、何かに参加しようという項目や「自然の中ではすべてのものが循環している」といった知識レベルの項目では変化が無く、短い期間に、体験を中心としたプログラムだったこともあり、このような項目の変化が見られなかったものと思われる。





# Earth Kids Camp Report 2009

## 森の時間 身体の時間

【日程】2009年7月25日(土)～7月27日(月) 2泊3日

【参加者】男10名、女14名(小学2年生～6年生)

【場所】帯広市・岩内自然の村

### 概要【十勝でのアースキッズキャンプ】

十勝での初めてのアースキッズキャンプ。フィールド探しからスタートしました。場所は日高山系の麓の岩内自然の村。スタッフとして関わってもらったOJTの皆さんとの1日ワークショップでフィールドの特性を洗い出し、プログラムを組み立てていきました。

期間中はあいにくの雨となり、自然の中でのプログラムがほとんど出来ず、子どもたちも残念そうでしたが、ウバユリのデンプン作りやせんべい作りは興味深く取り組んでくれました。また、キャンプ中の食材は地元の新鮮で安全なものを集め、身体にも良いキャンプとなりました。

### プログラム

	活 動	内 容
1 日 目	集合 牧場見学 到着・オリエンテーション アイスブレイク 目的の共有化・約束作り 夕食コンテスト ナイトプログラム 絵本の朗読	帯広駅に集合 自然の村への途中に立ち寄り  十勝の食材を使ったカレーコンテスト
2 日 目	朝の散歩 森の中での自然ゲーム オオウバユリからデンプン採 デンプンせんべい作り ナイトプログラム 絵本の朗読	毎朝、メンバーの調子を尋ねます 近くの川辺まで歩いて行きました 帯広の百年記念館の学芸員の方にご協力い ただきました 十勝のクマ撃ちの方にお話を聞きました
3 日 目	葉っぱのランチョンマット ふりかえり 地球への約束 出発・解散	少し雨も上がり、葉っぱを集めました



### ふりかえり

#### 【参加した子どもたちがお家で話したこと】

- ・クワガタや虫取り、エコの大切さについて、獺師さんの話(熊の糞、食べ物など)いつもはあまり話さないのですが、とても楽しかったようで体験を色々話してくれました。
- ・友達ができてよかった。暑くて寝れなかった。ご飯がおいしかった。
- ・楽しかった。作ったものを見せてくれました。

#### 【保護者の感想】

- ・友達もたくさんできたみたいで笑顔で帰ってきました。少し成長した気がします。
- ・親からはなれて(2日間)生活するのが初めてだったので、色々な意味で良い経験だったと思います。
- ・今まで子供の知らなかった一面も発見できましたし、これまで以上にいろいろなことに自信をもてるようになったと思います。この夏休みにとても良い経験ができたと思います。
- ・親とはなれて行動ができてよかった。初めての友達と仲良くできた。エコに目覚めた。

## 環境教育指導者養成セミナー報告 2002

総合的な学習の時間に使える環境教育活動のヒントと体験学習法

【日程】2002年9月 7日(土)～ 8日(日) 1泊2日

【参加者】26名

【場所】道民の森・青山交流館

【講師】山本幹彦 (NPO 法人 当別エコロジカルコミュニティ代表)

### 概要

セミナーを組み立てる上で、以下の目標を設定した。1) 体験学習法を理解する。2) 環境教育アクティビティを体験する。3) 各自のフィールドに沿った環境教育活動を作る。4) ネットワークを作る。また、具体的な教材として Project WILD を取り上げ、エデュケーターの資格を取得できるようにした。また、環境教育の講義やアメリカで開発された Project WILD 以外のアクティビティも紹介しながら実施した。どのアクティビティも体験を中心として作られていて、単にその楽しさだけではなく、それぞれのアクティビティが作られている教育手法についても説明することで、自分たちでアクティビティを使いこなせるように工夫した。

### プログラム

	活 動	内 容
1 日 目	集合・オリエンテーション アイスペイク 目的の共有化 環境教育体験 小講義 環境教育体験  小講義 温泉タイム。夕食 小講義 交流会	当別駅に集合し、会場までバスで移動 デートゲームを行った 子どもたちの目的を聞く アースアップル、オーディーア 環境教育概要 Project WET 紹介 (まだ日本では紹介されていなかった) 体験学習法  Project WILD の考え方
2 日 目	演習 (その1)  演習 (その2) ふりかえり 解散	グループに分かれて環境教育アクティビティを作ってみる グループ毎にアクティビティを発表  バスで移動



### Project WILD (プロジェクトワイルド)

プロジェクトワイルドは1986年にアメリカで開発された環境教育教材です。その目的は、あらゆる年齢の学習者の気づき、知識、能力、および実践力を発達させ、野生生物及び環境に関して、十分な情報を得た上での決定、責任ある行動、建設的な活動を行う能力を身につけさせることです。

プロジェクトワイルドの活動は、科学的な概念に基づき、学習者の興味を引き出す効果的な教育手法を採用しています。活動は簡単に実施でき、野生生物に関する予備知識は必要ありません。

プロジェクトワイルドは、多様な価値観が混在する問題には偏りなく対処しています。プロジェクトワイルドの活動及び教材は、問題に取り組む方法を指導するものであり、特定の見解を擁護するものではありません。プロジェクトワイルドでは、人々が自分自身で正しい決定を下すためには、様々な情報が必要であると考えています。

「生息地の重要性」がプロジェクトワイルドの基本的なテーマです。生息地とは「ある生物の生息条件を満たす、食料、水、隠れ家、空間が適切に配置されたもの」であると定義できます。生物が絶滅危惧種、絶滅危機種、絶滅種となる最大の原因は、「生息地の消失」です。



# 環境教育指導者養成セミナー報告 2003

総合的な学習の時間に使える環境教育活動のヒントと体験学習法

【日程】2003年9月14日(日)～15日(月・祝) 1泊2日

【参加者】25名

【場所】道民の森・青山交流館

【講師】山本幹彦(NPO法人 当別エコロジカルコミュニティ代表)

## 概要

昨年のプロジェクトワイルドに引き続き、今年はアメリカで最も古くに作られた環境教育教材 Project Learning Tree (PLT) を取り上げた。特に、PLT はほとんど北海道では紹介されてなく、興味を持って参加者は集まってもらった。参加者も20代が最も多く、学生を中心に、学校の先生、アウトドア会社のスタッフとバラエティーに富んでいた。体験型のセミナーの進め方の基本は、実際の体験、講義、実習という流れで行われる。また、PLT はテーマが木や森林なので、特に場所を選ばず、植物のあるところならどこでも体験を通した学びが可能なので、汎用性も広く、もちろん教育手法としてもしっかりしているので、どのような方にも使いやすい内容となっている。

## プログラム

	活動	内容
1 日 目	集合・オリエンテーション アイスブレイク	当別駅に集合し、会場までバスで移動 おしゃべりラベル、仲間づくりゲーム、環境を選ぶ
	目的の共有化 環境教育体験	子どもたちの目的を聞く 自分の石、箱の中は何?、木の詩、鳥と毛虫、森の中で起こっていること Project Learning Tree 説明
	小講義 温泉タイム。夕食 小講義 交流会	カリキュラムフレームワークについて
2 日 目	小講義	環境教育概論、体験学習法
	演習(その1)	グループに分かれて環境教育アクティビティを作ってみる
	演習(その2) ふりかえり 解散	グループ毎にアクティビティを発表 バスで移動



## Project Learning Tree (PLT) (プロジェクトラーニングツリー)

PLT は1970年代のはじめにアメリカで開発された世界で最も古い環境教育プログラムの1つです。

PLT は「環境」という何だかとはえどころのない内容を学ぶときに、身近にある樹木や森林を使いながら、土・水・空気といった自然界や私たちの社会といった環境全体について学ぼうとするものです。ですから、PLT は決して木について学ぶのではなく、木を(森や林を)「環境」という世界に開かれた窓として使いながら、周りの環境で起こっている問題に気づくために子どもたちの柔軟な(創造的で批判的な)思考を刺激し、解決に向けた決断を下すための情報を獲得する能力を身につけ、考え出された意見には自信を持たせ、環境のために責任ある行動がとれる個人を育てることを目指して作られています。そこで学ばれることも、環境の「何かを学ぶこと」ではなく、「どのように学ぶか」といったことに焦点が当てられ、地域からグローバルな視点までを持った環境プログラムとなっています。といっても、決して環境教育の専門家のために作られたのではなく、あくまでも「これから環境教育をやってみよう」という一般の教育者を対象に、どのような教科でも環境教育が取り入れられるものとして作られています。





# 環境教育指導者養成セミナー報告 2004

## 環境教育デザインを学ぶ

【日程】2004年9月11日(土)～12日(日) 1泊2日

【参加者】5名

【場所】道民の森・青山交流館

【講師】山本幹彦 (NPO 法人 当別エコロジカルコミュニティー代表)

## 概要

昨年までのように Project Learning Tree や Project WILD という非常にわかりやすい教材を使っ  
てのセミナーには参加者は定員を上回る人気だったが、プログラムデザインという形の無いものを  
テーマにしたからか、日程が合わなかったのか、参加申し込みが数名となった。

環境の村事業の3年目として、今まで調べてきたフィールドのポテンシャルを活かし、教材で紹介  
されている活動などを使って、一つのプログラムにしていこうとすることを目標とした。

内容はすぐに使えるものは出来なかったが、今までにない視点やアイデアもあり、環境の村で  
の活動に活かしていくことが出来るものとなった。

## プログラム

	活 動	内 容
1 日 目	集合・オリエンテーション アイスブレイク 小講義 お互いを知ろう 小講義 フィールドのポテンシャルを 調べる 温泉タイム。夕食 実習 交流会	当別駅に集合し、会場までバスで移動 フォトランゲージを使って 環境って何だろう？ 地球への恩返し 企画について 環境の村フィールドへ行き、その場所の特 徴を見つけた  企画作り
2 日 目	実習 プログラム紹介 実習 発表 ふりかえり 解散	企画作り ムッレ教室の紹介 企画作り  バスで移動



## 環境教育はプログラム作りがポイント

環境教育は身近な地域素材を使うことが大切だといわれています。というのも、環  
境というとらえどころのない概念をテーマとする時、身近に触れる体験が重要となり  
ます。では、身近な素材をどのように取り上げて、プログラムにしていこうかがポイン  
トとなります。

そこで、身近な素材を取り上げた教材作りがアメリカでは早くから取り組まれ、PLT  
や Project WILD といった事例集が紹介されるようになり、日本でも手に入ることが出  
来るようになりました。しかし、このような事例集は確かに身近な地域の自然を非常  
にうまく取り上げた優れた活動集ですが、そのまま使えば良いというものではありま  
せん。そこには、使う人の地域に合わせたアレンジと目的に合わせた複数の活動の組  
み合わせが必要になります。詳しくは、アースキッズキャンプの作り方等をご覧い  
ただければ簡単ですがご紹介しています。

その上で、重要なのは作り手のセンスとアイデアが問われます。まさに、プログ  
ラムをデザインする力というのでしょうか。でも、基本はフィールドをよく観察し、  
社会の動きを敏感に捉え、対象を常に頭の中でイメージし続ける中からアイデアが  
浮かんできます。センスは日々の積み重ねで磨かれるものかも知れません。



# 環境教育指導者養成セミナー報告 2005

さまざまな環境教育の手法を体験する

【日程】2005年3月4日(土)、3月12日(日)、3月19日(日) \* 3回シリーズ

【参加者】延べ51名

【場所】当別町白樺コミュニティーセンター、札幌市Lプラザ

【講師】境 智洋氏(道立理科教育センター)、山本幹彦(TEC 代表)

## 概要

今年からより参加しやすいように、場所を町の近くにし、日帰りの3回シリーズとした。内容は、冬に実施ということで雪をテーマに、理科センターの境さんにお越しいただき、雪を使った面白いアクティビティをたくさん教えていただいた。PLTは紹介できる方が北海道には少なく、今年も希望もあり、取り入れることとした。Project WILD サイエンス&シビックスは北海道では初めての講習で、全道から参加者が来られた。3回シリーズは好きなテーマだけ参加することも出来、手軽に環境教育に触れられることから、さまざまなジャンルの方が全道からお越しいただいた。環境教育というと専門知識が必要で、難しいというイメージを取り払ってもらえることができたのではないかと思います。

## プログラム

	活 動	内 容
1 日 目 『雪の中の環境教育』	集合・オリエンテーション アイスブレイク 活動体験	当別駅に集合し、会場までバスで移動 フォトランゲージを使って 氷を偏光板で挟んで見てみよう シャボン玉を凍らせよう ポリ袋でアイスクリームを作ろう 木の拓本作り 雪の層を見てみよう 雪の汚れを調べてみよう 冬芽の観察 水が凍る瞬間を見てみよう
2 日 目 PLT	集合・オリエンテーション アイスブレイク 活動体験 小講義 活動体験  小講義 グループワーク まとめとふりかえり	木の絵 体験学習法 森の中で起こっていること 生き物どうしのつながり Project Learning Tree 解説 ティーチャック
2 日 目 WILD S&C	集合・オリエンテーション アイスブレイク 活動体験 小講義 グループワーク まとめとふりかえり	流域に色を塗ろう、今と昔 Project WILD サイエンス&シビックス ティーチャック



## Project WILD サイエンス & シビックス

Project WILD サイエンス&シビックスは、高校生を対象とした科学と政治経済を融合させた教材です。特徴は、地域での活動を主としたサービスラーニングを取り入れ、中学校までに身につけた知識を使って、具体的な地域での活動を深める内容となっています。このアクティビティ集が出来たのはまだ新しく、日本でも最近になって紹介され、北海道では初めての講習会となりました。



# 環境教育指導者養成セミナー報告 2006

さまざまな環境教育の手法を体験する

【日程】2006年3月3日(土)、10日(土)、17日(土) \* 3回シリーズ

【参加者】延べ34名

【場所】札幌市Lプラザ

【講師】難波克己氏(玉川大学助教授)、山本幹彦(TEC 代表)

## 概要

様々な環境教育が紹介されるようになってくるに従い、その使い方の基礎となるグループ学習のメンバー同士、メンバーと指導者との関係性を抜きにした、内容の話しが主流になってきているように思われる。そこで、今年は日本にPAを紹介した玉川大学の難波さんにお越しいただき、グループの関係性と学びの関係や、人の学びのメカニズムについて、体験を通して指導してもらった。また、ESDの具体的な方法を紹介するため、今まで個別に紹介されていたESDに関連するアクティビティを、様々な活動事例集より紹介することで、ESDを進めていく上でのアイデアを見つけてもらうことが出来た。

## プログラム

	活 動	内 容
1 日 『PLT』	集合・オリエンテーション アイズブレイク 活動体験  グループワーク まとめとふりかえり	じっくり観察する、フォトランゲージ、生きもの同士のつながり、森の中で起こっていること ティーチバック
2 日 『PA』	集合・オリエンテーション 小講義 活動体験  小講義 活動体験 小講義 活動体験 まとめとふりかえり	PAとは 膝たたきと自己紹介各種、 キャッチ、ヤートサークルなど PAの理論 ヘリウムフープなど  大切な言葉のファイル
2 日 『ESD』	集合・オリエンテーション アイズブレイク 活動体験  小講義 まとめとふりかえり	4つのコーナー、フォーストチョイス ワールドゲーム、貿易ゲーム ESDについて



## PA (プロジェクトアドベンチャー)

プロジェクトアドベンチャーはアメリカで開発された、人の成長を援助するプログラムの一つです。PAのホームページにはこのように紹介されています。『人は様々な「気づき」を経て成長していきます。人が成長するためには「信頼関係」がなにより大切で、信頼関係づくりはチームビルディングでもあります。信頼関係は学習の環境としても最も大切なもので、気持ちが開かれたままでは、成長のための「気づき」は生まれません。時には、自分の限界を超える挑戦をすることも成長のためには必要です。そのような挑戦をささえてくれる仲間が存在であり、「気づき」を成長に導くのがPAプログラムです。』とあるように、学びを司る基礎となる関係性を構築するのに非常に有効なプログラムとして、多くの学校や企業、スポーツチームで利用されています。



## 環境教育指導者養成セミナー報告 2007

さまざまな環境教育の手法を体験する

【日程】2007年11月3日(土)～4日(日)、2008年3月2日(日)

【参加者】延べ44名

【場所】当別町旧川下小学校、札幌市Lプラザ

【講師】高見豊氏(日本野外生活推進協会会長)、山本幹彦(TEC代表)

### 概要

今年のメインはスウェーデンで開発された幼児を対象とした環境教育ムッレ教室の指導者養成です。本州からも参加者を迎え、幼稚園の先生を中心とした北海道では滅多に開かれないセミナーとなりました。1日目は屋外で自然を見る視点や幼児に伝えるゲームを体験してゆきます。また、ムッレの誕生をピクチャーシアターで紹介され、歌とダンスを学びます。講義は安全管理や子どもの心と体の発達と環境教育プログラムの関係や、スウェーデンの野外保育園での実際に活動をビデオで紹介。2日目はグループに分かれての実習が中心となります。また、昼食はスウェーデンの野外保育園での定番となっているねじりパンを全員で作って食べました。2回目のセミナーは時間をおいて3月に、PLTを取り上げて実施しました。

### プログラム

	活 動	内 容
1 日 目 『 ム ッ レ 教 室 』	集合・オリエンテーション グループワーク 自然観察とゲーム ピクチャーシアターとゲーム 実技 小講義	ムッレ誕生の話 ムッレの歌、自然の道クイズ 救急法 子どもの心身の発達と野外活動
2 日 目 『 ム ッ レ 教 室 』	パン生地作り 小講義 グループワーク 昼食 グループ発表  まとめとふりかえり	プランの立て方  ねじりパンとスープ作り 「自然観察」「ピクチャーシアターとゲーム」「自然の道クイズ」「ムッレ登場」
2 日 目 『 P L T 』	集合・オリエンテーション アイスブレイク 活動体験  小講義 グループワーク まとめとふりかえり	Tree Rings じっくり観察する、フォトランゲージ、生きもの同士のつながり、PLTについて、体験学習法 ティーチバック



### ムッレ教室

スウェーデンにある野外生活推進協会が50年前に作った、子どもに語りかける森の妖精として作られたのがムッレです。ムッレとはスウェーデン語で土壌という意味があり、森を作るのは土が大切なんだという意味が込められています。また、ムッレ教室と呼ばれるプログラムは、幼稚園の年長さんを対象としたもので、発達段階に合わせた内容となっていて、その前後の年齢にはクニユータナ教室やストローバレー教室と呼ばれるプログラムが作られている。また、ムッレには友だちがいて、川の妖精のラクセ、空気の妖精のフィエルフィーナ、宇宙からの使者のノヴァがおり、水、空気、土といった地球を構成している3大要素の大切さを幼児期から伝えているプログラムです。



# 環境教育指導者養成セミナー報告 2008

## 海外で作られた環境教育アクティビティ

【日程】2008年3月8日（日曜日）

【参加者】21名

【場所】北海道環境サポートセンター

【講師】山本幹彦（TEC 代表）

### 概要

環境の村で行ってきたセミナーで取り上げてきた環境教育のテーマはどれも海外で開発されたものばかりでした。今年はセミナーが1回ということもあり、それら海外で開発された環境教育教材を一気に紹介する内容とした。まず初めに、学びの土俵作りとしてのアイスブレイクの活動をいくつか紹介した。その後、関係性が出来たグループでの取り組みとしてフォトランゲージを取り上げ、価値観の違いに気づいたり、共感したりする教材を紹介。体験の間には小講義を挟み、環境教育の概念や手法を説明したりと、なかなか忙し内容となったが、参加者は環境教育という難しい知識が無いと無理かなと思われてられた方が多く、楽しい体験中心の教育に「自分でもできる。」と思ってもらったようだ。

### プログラム

活動	内容
集合・オリエンテーション	
アイスブレイク	間違い探し、言葉探し、恐竜の足跡
活動体験①	フォトランゲージ
小講義	環境教育の歴史とアクティビティ
活動体験②	森の言葉、木の一生
活動体験③	水の旅、世界が100人の村だったら
小講義	
まとめとふりかえり	



### 環境教育って何？

2005年に改正された北海道の環境基本計画に、環境教育の基本方針を『環境教育では、単なる知識の習得だけではなく、一人ひとりが自ら体験し、感じ、分かるというプロセスを踏むことにより、知識や理解を行動に結びつけることができるため、自然や暮らしの中での体験を重視することが大切です。』と定義されています。

環境教育という言葉は1948年の自然保護連合の設立時に使われたのが始まりです。その後、1970年にアメリカで環境教育法が制定され、1972年にストックホルムで行われた「国連人間環境会議（地球サミット）」の場で、環境問題の解決に向けた計画には教育が欠かせないと、以下の勧告文が作成された。「事務総長、国連の諸機構とくにユネスコおよび関係諸国際機構に対し、相互協議の上、次に述べる国際的な計画を樹立するための必要な対策を立てることを勧告する。対象となるのは、環境に関する教育であり、あらゆるレベルの教育機関及び直接一般大衆とくに農山漁村および都市の一般青少年及び成人に対するもので、環境を守るため各自が行う身近な簡単な手段について教育することを目的とし、各分野を総合したアプローチによる教育である。」さらに、環境教育の目的として、「自己をとりまく環境を自己のできる範囲内で管理し、規制する行動を一步ずつ確実にする事のできる人間を育成すること。」とされた。この勧告を受け、1975年にはベオグラードで環境教育専門家会議が開催され、ゴールを「環境とそれに結びついた諸問題に関心を持つ人の全世界的な人間の数を増加させること。その人たちは、知識、技術、態度、意志をもち、現在の環境問題の解決について、個人的にも集団的にも貢献をなしえ、現在だけでなく将来の新しい問題の解決にも貢献しうる人たちであること。」と定義し、そのための目標を、1) 関心を持つこと、2) 知識、3) 態度、4) 技術、5) 評価のできる能力、6) 参加の6つに絞り込んだ。

環境の村では、この6つの目標の元にセミナーはもとより、すべての事業を展開しています。そして、各プログラムの効果をこの6つの指標を元に行っている。

# 環境教育指導者養成セミナー報告 2009

## 現場で使える環境教育プログラム

【日程】2009年2月28日（日曜日）

【参加者】21名

【場所】帯広市百年記念館

【講師】山本幹彦（TEC 代表）

### 概要

今までセミナーでは海外で作られた教材を紹介するものが多かったが、今回は会場を従来の札幌近郊から帯広に移したこともあり、環境の村で取り組んできたアースキッズキャンプなどの実際の取り組みの中で行ってきたプログラムを紹介することで、北海道の各地で環境教育をキーワードとしたキャンプやイベントが取り組まれていくことを目的とした。

まずはスライドを使って2002年から取り組んできた環境の村事業を紹介した。その後、環境の村で大切にしてきた体験を通じた環境教育の取り組みのポイントを体験学習法の教育手法を実技を踏まえて説明した。その後、いくつかのアクティビティを紹介することで、実際の場面に使える環境教育のエッセンスを知っていただいた。

### プログラム

活動	内容
集合・オリエンテーション アイスブレイク 目的の共有化 小講義 活動体験① 小講義 まとめとふりかえり	木を使った自己紹介  環境の村の環境教育プログラム紹介 アースアップル 体験学習法、環境教育の目的



### 環境教育から ESD へ

1972年のストックホルムでの地球サミットから20年。ブラジルのリオで2回目の地球サミットが1992年に開催され、会議の冒頭、議長は「この20年に地球の環境問題は深刻さを増すばかりで、何一つ解決できなかったばかりか、問題が増えていく一方だ。」との発言があり、解決に向けた具体的な行動目標である「アジェンダ21」が出来上がった。この中で話し合われたキーワードが持続可能性であった。1987年、国連のブルントラント委員会では持続可能な開発をキーワードとして話し合わせ、1) 持続可能な開発とは、将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発をいう。2) 全ての人々に基本的なニーズの充足と、よりよい生活を求める向上心を実現する機会を保障する。と、定義された。そこで、アジェンダ21では、従来の環境教育という自然を対象としたイメージが強かったものが、社会のありようが環境問題の原因であり、社会や経済、地域コミュニティのあり方をも対象とした持続可能な社会のための教育と、言い改められ、新たなコンセプトの元に国連加盟国が取り組むこととなった。

それから10年、2002年に南アフリカのヨハネスブルクでの地球サミットの場で、日本の提案として「持続可能な開発のための教育の10年」という国連主導の世界的な教育キャンペーンの実施が提案され、翌年の国連総会で採択され、2005年から2014年までの10年間で持続可能な開発のための教育の10年（Education for Sustainable Development=略してESD）として取り組まれることとなった。このキャンペーンは国連が取り組んでいる「国連ミレニアム開発目標」とされている「環境の持続可能性の確保」と対になっているもので、単に自然だけを対象とするのではなく、もっと広い視野に立った教育の取り組みの必要性が取り上げられている。

この日本が提案国として実施しているESDは、あまりにもその概念が広く、また、単に教材の開発や学校だけで行われるものではなく、社会全体の教育力というような視点が必要かと思われる。まさに、環境の村がその指針として活動していくことが求められる分野ではと考える。

